

英語の文章構成の特徴の明示的訓練と暗示的訓練の効果
 The Effects of Explicit and Implicit Training
 in L2 Organizational Features

尾崎恵子
 明海大学

研究の目的

本研究は、Ozaki(2003)の反復研究である。Ozaki(2003)の研究目的の一つは、日本人大学生に英語の文章の構成上の特徴を明示的または暗示的に訓練することがその特徴の産出にどの程度効果があるか、また、その効果がどのくらい持続するかを調査することであった。本研究の目的は、Ozaki(2003)で得られた次の3つの仮説が別の参加者において再検証されるかどうかを調べることである。本研究では、中間テストを加え、明示的または暗示的訓練の過程をより詳細に観察することとした。

仮説

- 1 日本人大学生に英語の文章の構成上の特徴を明示的に訓練することは、その特徴を暗示的に訓練するよりも単に提示するよりも効果的である。
- 2 日本人大学生に英語の文章の構成上の特徴を暗示的に訓練することは、その特徴を単に提示するのと同じ効果である。
- 3 英語の文章構成の特徴の明示的訓練の効果は、少なくとも5週間は持続する。

研究方法

- 1 参加者は62名(3クラス)の日本人大学生で、明示群(22名)、暗示群(23名)、統制群(17名)という三つのグループを構成する。

2 手順

- (1) 最初の段階で、グループ間に英語力の有意差があるかどうかを調べる。
- (2) 次に、英作文の事前テストを行う。
- (3) その後、3つのグループに対して異なる訓練を夏休みの前と後に8週間ずつ行う。模範パラグラフの提示の方法と英作文の添削の方法はグループによって異なる。
 - (a) 明示群では、模範パラグラフの提示とともに英語の文章の構成上の特徴が講義形式で明示的に説明される。また、参加者の英作文は、その構成について、書き言葉で明示的に添削される。

9月4日(土) 研究発表2 第3室(0-701)

- (b) 暗示群では、注意を喚起したい構成上の特徴が太字で印刷された模範パラグラフが与えられるが、構成についての説明は行われない。英作文は、その構成について9色のカラーペンで暗示的に添削される。
- (c) 統制群では、模範パラグラフが単に提示されるだけで、構成についての説明は行われない。英作文は文法、語彙、綴りについて添削されるが、構成については添削されない。
- (4) 8週間の訓練の後、英作文の中間テストを行う。
- (5) 夏休みの後、さらに8週間の訓練を行い、英作文の事後テスト1を行う。
- (6) その後、訓練をしない5週間を挟み、英作文の事後テスト2を行う。

分析方法

- 1 英作文テストの得点(事前テスト・中間テスト・事後テスト1・事後テスト2)を、二元配置の反復測定分散分析を使って分析し、テスト間、および、グループ間に違いがあるかどうかを調べる。
- 2 グループ間に違いがある場合は、一元配置分散分析とシェフェテストを用い、どのグループ間に有意差があるのかを検証する。

結論

- 1 仮説1は検証された。日本人大学生に英語の文章の構成上の特徴を明示的に訓練することは、その特徴を暗示的に訓練するよりも単に提示するよりも効果的であることが確認された。
- 2 仮説2は検証された。日本人大学生に英語の文章の構成上の特徴を暗示的に訓練することは、その特徴を単に提示するのと同じ効果であることが確認された。
- 3 仮説3は検証された。英語の文章構成の特徴の明示的な訓練の効果は、少なくとも5週間は持続した。

引用文献

Ozaki, K. (2003). Learnability of explicit and implicit metaknowledge in second language writing. Unpublished doctoral dissertation. Temple University Japan.